

2021年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書



**ウェットコンディションのレースで、江澤が開幕2連勝を決める。
ナショナルクラスもアドバンス生が表彰台を独占する活躍を披露!!**

5月15日(土)公式予選/10:30~10:50 天候・路面:Cloudy/Dry

**#18江澤伸哉・予選1位 #64中村煌・予選2位 #6堀井颯大・予選6位
#56小田喜阿門・予選9位 #52上江洲葵要・予選14位 #17永山陽梨・予選23位**

鈴鹿サンデーロードレース第2戦は今季初のフルコース開催となり、2日間にわたって予選、決勝が行われた。SRS-Motoアドバンス生の6名が参戦するJ-GP3クラスには総勢27名がエントリーしており、さらなる激戦が予感された。前日に行われた特別スポーツ走行は快晴の中で行われたが、公式予選の土曜日は朝から曇り模様で、気温も前日より大幅に低くなった。コンディションの違いに走りを含められるかが上位進出のカギとなると思われた。

20分間の予選が始まると、SRS-Motoアドバンス生の6名は集団からやや後方でコースイン。練習で2分21秒台を記録していた江澤伸哉は序盤から順調にタイムを伸ばし、4周目に22秒184を記録してリーダーボードのトップに立つ。同じく4周目、中村煌が23秒220で江澤に次ぐ2番手のタイムを記録。江澤、中村のタイムはこれ以上は伸びなかったものの、その後彼らの記録を上回るライダーは現れず、予選ワン・ツーをSRSコチラレーシングが獲得するという結果となった。前戦で江澤に次ぐ決勝2位という好結果を残した堀井颯大は集団の中での位置取りを失敗して思うようにタイムが伸びず、24秒283で6位となった。小田喜阿門が9位となり、上江洲葵要は14位。そして今回がサンデー初参戦となる永山は23位という結果となった。

5月16日(日)決勝レース(フルコース8周) 天候・路面:Rain/Wet

**#18 江澤伸哉・総合1位/インター1位/NSFチャレンジ1位
#6 堀井颯大・総合4位/ナショナル1位/NSFチャレンジ2位
#56 小田喜阿門・総合5位/ナショナル2位/NSFチャレンジ3位
#64 中村煌・総合6位/ナショナル3位/NSFチャレンジ4位
#52 上江洲葵要・総合15位/インター7位/NSFチャレンジ9位
#17 永山陽梨・総合18位/ナショナル10位/NSFチャレンジ11位**

決勝レースは未明から降り続く雨によりウェット宣言が出され、2周減算の8周で行われた。予選6位、2列目スタートの堀井が絶妙なクラッチミートでホールショットを決めると、オープニングラップを1位で通過する。予選1位の江澤はスタートで数台に先行を許してしまうが、ポールシッターらしくすぐさまポジションを回復し、2周目には早くも堀井をパスしてトップに浮上する。小田喜は9位、スタートでミスをした中村が10位。上江洲16位、永山が19位で2周目に入っていた。

トップに浮上した江澤は後続との差を徐々に開くと、レース中盤には独走状態を築き上げ、2位に3秒以上の差をつけて開幕戦に続いてトップでチェッカーを受けた。江澤に先行された堀井は、その後3台による2位争いを展開。周ごとに順位を入れ替えながら、3位のポジションで最終ラップへと突入。スプーンを立ち上がった堀井は先行車のスリップを狙うもののその距離は縮められず、さらにバックストレッチで後続のライダーにも先行されて4位という結果となった。じわじわと順位を上げていった小田喜は堀井に続く5位となり、中村は小田喜にコンマ3秒差の6位でゴールした。この結果、ナショナルクラスの表彰台、NSFチャレンジの1~3位は、SRSコチラレーシングが独占することになった。上江洲は15位、永山は予選からポジションを5つ上げた18位でレースを終えている。



2021年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

インターJ-GP3クラス：予選総合1位/決勝(総合・クラス・NSFチャレンジ)1位

江澤伸哉(えざわ しんや) 15歳

『スタートで数台に先行されましたが、他車のペースが速くて、転倒が発生しそうだったので1周目は様子を見ることにしました。堀井選手が単独で先行していましたが、加速重視で立ち上がっていけば問題なくパスできるだろうと思い、その通りにできました。今回は予選、決勝とも良い結果でしたが、その内容は決して良くはありませんでした。目標タイムをドライで2分19秒、ウェットで2分29秒と設定していましたが、大きく遅れたタイムしか出せませんでした。先生方から頂いたアドバイスを自分の中にしっかり取り込むことが出来なかったのが大きな反省点で、タイムアップが最重要課題ですね。自分は不器用なのでバイクと体をうまく連動させられません。今後は身体を柔軟に動かせるよう、時間を有効に使って体操やダンスといったメニューにも取り組もうと思います』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合6位/決勝(総合)4位・(クラス)1位・(NSFチャレンジ)2位

堀井颯大(ほりい そうた) 15歳

『予選ではミスがあり、風も強かったことがあってタイムは全然出ませんでした。決勝はとにかく前に出ることを意識し、前に出るチャンスがあれば積極的に行くつもりでスタートしました。その結果ホールショットを決めることが出来ましたが、江澤選手にストレートで先に行かれてしまいました。その後もペースを上げられませんでした。やはり江澤選手のように自分でレースを引っ張らないと思っています。レース展開を組み立てることが今の一番の課題だと思っています』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合9位/決勝(総合)5位・(クラス)2位・(NSFチャレンジ)3位

小田喜阿門(おだき あもん) 13歳

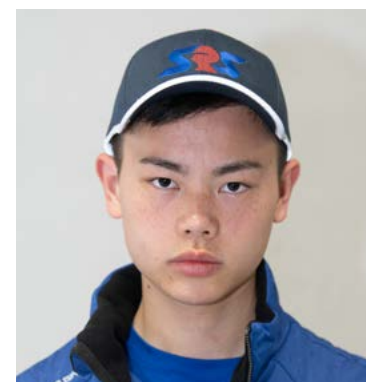
『予選ではS字コーナーのライン取りが上手く行かず、次のコーナーに繋げていくリズムが作れませんでした。その結果、思うようにタイムを伸ばせなくて、それで焦ってさらに駄目な方向に行くという悪循環でした。レースでは前列の堀井選手についていくつもりでしたが、スタートで遅れて後続集団に飲みこまれ、追いつきのレース展開でした。今後はS字と次のコーナーを上手く繋げられる走り方ができるようにしないとダメだし、それが出来たうえで毎ラップ正確に同じラインをトレースし、アベレージのアップを目指したいです。そうすることでレースを引っ張っていけるようになるんじゃないかと思っています』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合2位/決勝総合6位・(クラス)3位・(NSFチャレンジ)4位

中村煌(なかむらこう) 15歳

『予選では単独走行でタイムアップを狙いましたが、コーナー進入時のライン取りがまだまだです。特にヘアピンやシケインのブレーキングはつまみ過ぎでした。決勝レースでは、スタート直後のクラッチワークミス、そして2コーナーのシフトミスでかなりの台数に先行されました。3列目や4列目のライダーまで迫って来たんですが、ここで焦ったら転ぶと思う、とにかく冷静に自分のペースを守りました。その結果順位を上げられたのは良かったと思います。とはいえラストラップで直前を走る小田喜選手の走りにつられて自分の走りのリズムを崩してしまいました。こういったことも今後の課題です』



2021年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

インターJ-GP3クラス：予選総合14位/決勝総合15位・（クラス）7位・（NSFチャレンジ）9位
上江洲葵要（うえずあおい）15歳

『決勝のスタートはうまくいったと思ったんですが、アウトから来たライダーに引っかかってしまい、その間にどんどん先行を許してしまいました。今まで通りのウェット路面のイメージで走ると滑ったりして、それが焦りにもなりました。予選も決勝も走行前にイメージを固めきれなくて、走り出しのタイムが悪く、結果にもつながられません。自分自身の走りに対して理解が不足しています。まずは自分自身をしっかりと理解し、スピードコントロールの技術をしっかりと自分のモノにしたいです』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合23位/決勝総合18位・（クラス）10位・（NSFチャレンジ）11位
永山陽梨（ながやま ひな）13歳

『金曜の練習で転倒しているので、練習不足の焦りと緊張が予選のタイムに影響してしまいました。転倒の焦りが予選に影響したので、レースでは焦らず冷静に走ってタイムや順位を上げようと頑張りました。スタートは良かったんですけど、その後のライン取りやアクセルの開け方すべてがダメで、前からもどんどん離されてしまいました。結局冷静に走ることが出来ず、そこが自分の弱点なんだと思いました。レースの最後のほうになってレインのフルコースの走り方のコツが少しつかめましたが、もっと早くコツをつかめるようにならないといけません』



岡田忠之 Principal

『（江澤）伸哉が優勝し、（堀井）颯大も最終ラップで抜かれましたが、それまでは3位を走り、ナショナルのトップでゴールできたことはいい結果だと思っています。颯大に関しては体が大きいこともありストレートが伸びないので、今後何らかの対策をしてあげられればと思っています。（小田喜）阿門はフルコースの経験が少ない中、講師陣のアドバイスを受けて自分のウィークポイントを決勝に向けてリセットし、今後の成長を期待させてくれました。ただ彼は体が小さいので、バイクを押さえつけられる体重と体力は足りていません。これは（永山）陽梨にも言えることですが、この2名は身体づくりも頑張ってもらいたいですね。（中村）煌は速く走ろうとして、立ち上がりで開けられないといったようなポイントがあり、それが遅れる原因となっています。そういったところを自分でコントロールできるようになれば、目標の19秒台に入れられるのではと思います。（上江洲）葵要は今悩んでいる状況ですので、次の走行の際にスタンダードのスペアマシンに乗せてリフレッシュさせてみようかと考えています。陽梨はまだまだ走り慣れていませんね。また前回（のサンデー）は転倒しているので、以前までの勢いが少し弱くなっているようです。今後もどんどん練習を重ねてもらい、我々もいろんなことを徐々に教えていくつもりです。今回は全員完走しているのでデータもしっかり取れました。このデータを活かすことで、次のレースも大いに期待ができますね』

